



ざっくり理解する気候変動 井川タ慈著より

気候変動と環境経営(11)

統合報告書の記述

1 月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2026 年 1 月 21 日(水)

統合報告書における気候変動に関する記述は、

(1) 気候変動リスクの認識

企業が、気候変動に関連するリスクをどのように認識しているかの説明。これは物理的リスク(自然災害や気候変動)や移行リスク(規制強化や技術革新の影響)である。

(2) リスク管理体制と戦略

リスク管理方針やリスク軽減戦略及び機会。例えば再生可能エネルギーへの転換、エネルギー効率の向上、サプライチェーンの見直しなど

温室効果ガスの排出量、目標

Scope1(直接排出)、Scope2(間接排出、主に電力使用)、Scope3(サプライチェーン全体にわたる間接的排出)。

排出削減目標の進捗状況

温暖化対策の取組

排出削減のための具体的な取組

クリーンエネルギーへのシフト

気候変動に対するガバナンス体制

取締役会、経営陣の監督体制、戦略や目標設定

将来の展望と方針

企業が気候変動関連のリスクと機会をどのように認識し、それを経営戦略やリスク管理にどのように統合しているか

気候変動問題の現状認識と気候危機としての認識

単なる環境問題を超え、人類の生存基盤を揺るがす「危機」として認識することが必要である。

現実には、世界各地で記録的な熱波や豪雨による気象災害が発生し、危機的な被害が生じている。